



# 2022年度 活動報告書

---

一般社団法人にじーず

# もくじ



---

## 01.運営体制

## 02.2022年度の活動実績

- 開催回数と参加者数
- SNSでの情報発信
- 交通費補助制度の導入
- 公開イベント
- 若者支援団体との協働
- アドボケイト

## 03.2022年度参加者アンケート

## 04.今後の課題



# 01 運営体制

# 運営体制

- ・10代～23歳までのLGBT(かもしれない人含む)のための居場所として2016年8月より活動を開始。2021年4月に**一般社団法人化**。
- ・毎月1回(※1)のオープンデーを開催。これまでの延べ参加者数は**約3,000人**。
- ・これまで活動していた札幌、東京(表参道)、埼玉、京都、神戸、岡山に加え、2022年度は**新たに新潟、東京(多摩)、大阪拠点**がスタートし、全国9拠点となりました。
- ・拠点拡大に伴い、スタッフも増員。2023年3月時点でスタッフ数は全拠点あわせて**約70名**。

※1...京都、神戸、大阪拠点は隔月開催。





## 02 2022年度の活動実績

拠点	開催回数	総合計人数	内、総新規数
札幌	12回	166人	67人
新潟	11回	48人	23人
埼玉	12回	142人	43人
東京(表参道)	12回	271人	85人
東京(多摩)	12回	133人	45人
京都	6回	43人	19人
神戸	6回	24人	13人
大阪	5回	43人	28人
岡山	11回	76人	27人
仙台	2回	21人	19人
長野・松本	5回	37人	25人
静岡・浜松	2回	18人	7人
島根・鳥取	2回	7人	7人
合計	98回	1029人	408人

## 開催回数と参加者数

・2022年度は全国で計**98回**のオープンデーを開催。

・総参加者数は**1029名**。そのうち、新規参加者数は**408名**。

・2022年度は新拠点が複数開始したことから、2021年度に比べて、開催回数、実参加者数、新規参加者数のすべてにおいて**およそ2倍まで増加**しました。

・なお、東京(表参道)12回のうち3回は東京都事業として、東京(多摩)は全12回を多摩地域連携市事業として実施。

# SNSでの情報発信

全国には、必要な情報にアクセスすることが難しい LGBTユースが大勢います。にじーずは、SNSでの情報発信を通じて、全国の LGBTユースに心理的サポートと肯定的な情報を提供します。



## にじーずラジオ保健室

- ・LGBTユースからのよくある相談について、にじーずスタッフが回答する10分ほどの音声番組。
- ・「カミングアウトってしたほうがいいの?」「LGBTに理解のない親へのカミングアウト」などのテーマを取り上げ、2023年3月時点で **25本**の番組を配信しています。
- ・[Radiotalk](#)のほか、Spotifyでも配信中。また、[Instagram](#)にて、ラジオ保健室の内容をまとめたインフォグラフィックスを公開中です。

Radiotalk ▶



Instagram ▶



# 交通費補助制度の導入

にじーずは、会場までの交通費補助を通じて、LGBTユースが経済状況や居住地に関わらず居場所にアクセスできるようサポートします。

## 交通費補助制度

- ・家族の協力を得られない、会場から離れた地域に住んでいるなどの理由から交通費を捻出することが難しいユースに対して、交通費の一部を補助する制度を導入しました。
- ・交通費補助の財源確保のため、2022年4月20日～6月19日の約2か月にわたってクラウドファンディングを実施しました。結果、目標額を上回るご支援をいただきました。
- ・2022年度は**58名**(実人数)の利用がありました。





# 公開イベント

LGBTユースが日常の多くの時間を過ごす学校や家庭、地域においてサポーターティブな大人を増やすことは重要です。にじーずは、教員やユースワーカー等に向けたイベントを通じて、LGBTサポーターティブな社会の創出に貢献します。



## 全6回の公開イベントを開催

・2022年度は、**全6回**の公開イベントを開催しました。オンラインでの開催を中心に、一部対面でも開催しています。子ども若者支援者や教職員、LGBTコミュニティで活動されている方など、**延べ288名**の方にご参加いただきました。LGBTユースが置かれている課題やサポートのためにできることなど、引き続き発信していきます。ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。

# 若者支援団体との協働

にじーずは、研修や情報発信を通じて若者支援団体と連携しながら、地域の中でLGBTユースが安心して過ごせる居場所を増やします。



## 認定NPO法人カタリバ様で職員向け研修を実施

- ・認定NPO法人カタリバ様にて「多様性深めるプロジェクト」と称し、性の多様性を切り口とした多様なユースとの関わりについての研修を実施しました。
- ・2022年10月から2023年4月の7か月間にわたり、**全16事業部、総勢170名の職員**を対象に研修をおこないました。
- ・上記研修の他、札幌市若者総合支援センター様や京都市南青少年活動センター様などで、ユースワーカーなどを対象とした研修を実施しました。
- ・また、SAPジャパン様にプロボノとしてご協力いただき、青少年施設のヒアリングを踏まえた研修資料を作成しました。こうしたリソースを活用しながら、今後もユースセンターなどの子ども若者支援施設向けの啓発、情報発信をおこなっていきます。

# アドボケイト

## LGBTユースの権利擁護

LGBTユースが自分らしく過ごせる環境づくりのためには、多様な性のあり方を前提としたルールや制度を整備する必要があります。にじーずは、社会への発信や働きかけを通じて、LGBTユースが過ごしやすい環境づくりに貢献します。

### 香川・岡山での制服自由選択制署名提出

- ・香川・岡山での制服自由選択制を求める署名活動に、にじーず岡山スタッフが協力しました。
- ・LGBTユースの中には、出生時に割り当てられた性別に基づいて二元的に割り当てられた制服を着用することに苦痛を感じる人もいます。そのほかにも、様々な理由で制服を変更したいと感じているユースがいます。
- ・2022年11月には**1.1万筆**の署名を香川県教育委員会へ、2023年2月には**1.5万筆**の署名を岡山県教育委員会へ提出しました。



写真提供: Change.org



# 03 2022年度参加者アンケート

# 参加者アンケート

2023年3月実施 回答者66名

## 参加者の年齢分布

13～15歳(中学生年代):15.2%

16～18歳(高校生年代):31.8%

19～23歳(大学生年代):53.0%

※大学生年代には専門学生や会社員なども含む。

## 参加者のセクシュアリティ

非シスジェンダー:73%

非異性愛:67%

その他:14%

※重複あり

※その他:クエスチョニング、クィア、不明を選択

目的:にじいず参加者の実態把握およびニーズの発掘

調査方法: Googleフォームを使用

調査期間: 2023年3月1日～3月17日

回答者数: 66名(昨年度比1.18倍)

参加者の年齢分布を見ると、大学生年代が最も多く、高校生年代、中学生年代と続きます。昨年度と比較すると、中学生年代がやや増加しています(前年度10.7%)。近年の傾向として、保護者の送迎により来場する中学生が増えています。

また、参加者のセクシュアリティを見ると、非シスジェンダー、非異性愛がともに7割前後となっており、性自認と性的指向ともにマイノリティ性をもっているユースも少なくありません。また、クィアやクエスチョニングといった、既存の枠組みに当てはまらない／分からない、迷っていると感じているユースも一定数参加していることが分かります。

# 参加者の声

”

今まで当たり前にかミングアウトできて自分の性別やセクシュアリティを尊重してもらえる場所なんてなかったからこんな場所があるんだってびっくりしたし開放されたし楽しかった。自分はトランスとして普段クローズドなので悩みや思ったことなど誰にもいえず辛いからこういう場があると本当に助かる。絶対に話に参加しなくてもよくて、何をしてもいいというシステムが助かります。

”

温かく落ち着いた雰囲気でも過ごせた。互いの悩みや今抱えている思いを安心して吐き出せる場というか、ここなら大丈夫だなという精神的な安心感があった。

”

この空間にいる人はみんな理解があると思うと、部屋にいただけで落ち着いて過ごせました。私は周りの人にカミングアウトしてないから、話している時も嘘ついている感じになり苦しくなる時がありますが、ここでは少しだけ本当の私で居られるので、よかったです。

The slide features several large, overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and a yellow diamond. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green parallelogram, and a yellow parallelogram. The text '04 今後の課題' is centered on the page.

## 04 今後の課題

# 今後の課題

## 安全な居場所運営のための取り組み

LGBTユースは学校や家庭において孤立しやすく、様々な危害に晒されやすい側面を持っています。にじーずでは、ユースの安心を守るための体制を充実させたいと考え、セーフガーディング<sup>(※)</sup>指針の策定やスタッフ向けの研修強化に取り組みます。

※「組織の役職員や関係者によって、また事業活動において、子どもにいかなる危害も及ぼさないよう、つまり虐待・搾取や危険のリスクにさらすことのないよう努めることであり、万一、活動を通じて子どもの安全にかかわる懸念が生じたときには、しかるべき責任機関に報告を行い、それを組織の責任として取り組むこと」(「子どもと若者のセーフガーディング最低基準のためのガイド」公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)

## LGBTインクルーシブな居場所の拡大

2022年度、にじーずは全国9拠点となりましたが、全国のLGBTユースが安心できる居場所にアクセスするにはまだまだ居場所が足りません。子ども若者支援施設への啓発を進め、既存の地域の居場所をLGBTインクルーシブにしていくことで、全国各地のLGBTユースが安全に居場所にアクセスできる環境を整えていきます。





## ご支援くださる皆様へ

いつも、にじーずをご支援いただき、ありがとうございます。LGBTを取り巻く社会情勢が目まぐるしく変化する中、わたしたちの活動は困難な状況に直面しています。そのような中でも、ユースが自らの力を信じ、前向きに生きていくためのつながりやきっかけを提供できるよう、これからも真摯に活動を続けてまいります。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

### お問い合わせ

[24zzzmail@gmail.com](mailto:24zzzmail@gmail.com)